

和モダンの世界 近代の輸出工芸

～金子皓彦コレクションを中心に～

たばこと塩の博物館（東京・墨田区）で

2017年11月3日（金・祝）～2018年1月8日（月・祝）開催！

寄木細工、芝山細工、陶磁器、漆工品をはじめ、麦わら細工や貝細工など・・・
 明治・大正・昭和前期の輸出工芸品を中心に、約200点を紹介。

たばこと塩の博物館では、2017年11月3日（金・祝）から2018年1月8日（月・祝）まで、「和モダンの世界 近代の輸出工芸 ～金子皓彦コレクションを中心に～」展を開催します。

日本輸出工芸研究会会長である金子皓彦（かねこ・てるひこ）氏は半世紀以上に渡り、幕末・明治から昭和時代初期頃に制作された輸出用工芸品を収集し、今日“和モダン”と称される分野の資料を中心に約20万点もの資料をコレクションされています。コレクションの中には、たばこ盆やシガレットケースといった、たばこに関する資料も含まれ、当館とも縁があり、過去にも金子コレクションの展覧会を2回開催していずれも好評を博しました。

今回の展覧会では“和モダン”をテーマに、金子コレクションの中から、寄木細工、芝山細工、薩摩焼をはじめとする日本陶磁器、漆工品などの美術工芸品、さらには麦わら細工や貝細工といった民芸品もご紹介します。あわせて、国内で開催された博覧会などに出品された生人形なども展示し、さながら骨董市に踏み込んだような空間で、美術工芸品のみならず様々なモノに宿る美の世界をご覧ください。

【作品介绍】→別紙1へ 【展示関連の催し物】→別紙2へ

開催概要

名 称 「和モダンの世界 近代の輸出工芸
 ～金子皓彦コレクションを中心に～」

ヨ ミ ワモダンノセカイ キンダイノユシュツコウゲイ
 ～カネコテルヒココレクションヲチュウシンニ～

会 期 2017年11月3日（金・祝）～2018年1月8日（月・祝）

主 催 たばこと塩の博物館

会 場 たばこと塩の博物館 2階特別展示室

所 在 地 東京都墨田区横川 1-16-3
 （とうきょうスカイツリー駅から徒歩8分）

電 話 03-3622-8801 FAX 03-3622-8807

U R L <https://www.jti.co.jp/Culture/museum/>

観 覧 料 大人・大学生：300円（150円）
 満65歳以上の方（要証明書）：150円（100円）
 小・中・高校生：100円（50円）
 ※（ ）内は20名以上の団体料金
 ※観覧料で常設展示もご覧いただけます。

開館時間 午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

休 館 日 月曜日（ただし1/8は開館）、12月29日（金）～1月3日（水）



Photo.01

寄木細工
 ライティングビューロー
 箱根 明治時代



Photo.02

真葛焼獅子図花瓶
 明治～大正時代

お問い合わせ先：たばこと塩の博物館 広報担当：褒地（ほろち）由美子
 E-mail: horochi@tsmuseum.jp

本展は、骨董市に踏み込んだような雰囲気でご覧いただきます。ここでは、種類ごとに目玉の作品をご紹介します。

■ 寄木細工、木象嵌

寄木細工や木象嵌は、現在では箱根・小田原地方の伝統工芸として知られていますが、その誕生は江戸時代の駿河（現在の静岡県）でした。木材の色や木目の違いを利用して文様を描く寄木細工に対して木象嵌は曲線による表現が特徴です。本展では、屏風や衝立などの大形のものから小箱のような小形のものまで展示、日本の木工芸の緻密な美しさを紹介します。



Photo.01

寄木細工 ライティングビューロー／箱根
明治時代
幅241.0（拡張テーブルを開いた状態）×
奥行75.3×高さ181.0cm

Photo.03a



Photo.03b



寄木細工 レターボックス／静岡
明治時代

幅37.5×奥行30.0×高さ17.0cm

中蓋を開けると、03bのように梅と朝顔の
青貝文様が見られる。



Photo.04

木象嵌（木画） 二宮金次郎／高橋鶴五郎作／小田原
昭和15年（1940）
横43.0×縦68.7cm

■ 輸出陶磁器

1867年（慶応3）にフランスで開催されたパリ万国博覧会に出品された薩摩焼は、その巧緻、かつ華やかな色彩で高い評価を受け、「SATUMA」として日本を代表する銘柄になりました。1876年

（明治9）に開催されたアメリカのフィラデルフィア万国博覧会の報告書には、有田、淡路、伊勢、京都、瀬戸、美濃、横浜、東京からの陶磁器の出品が記されています。この中でも、横浜の真葛焼や東京の隅田焼は、明治から大正時代くらいまで輸出陶磁器として華々しい歴史を残しました。展示では、大形の壺からカップ＆ソーサーまで、様々な輸出陶磁器を紹介します。



Photo.02 真葛焼獅子図花瓶
明治～大正時代
胴径25.0×高さ22.0cm



Photo.05
薩摩焼武将図大花瓶
明治時代
胴径55.0×高さ125.0cm

■ 輸出漆器

日本の漆器は古くから貿易品として人気があり、江戸時代にはさらに高い評価を受け、輸出量も増加しました。そして明治維新以後は、駿河（現在の静岡県）と会津（現在の福島県会津若松市とその周辺）で外国人向けに大小様々な漆器が大量に制作され、横浜港などから輸出されました。漆器の中でも、薄く加工した貝片を工芸素材として用いた青貝細工は、主な産地として京都、長崎、静岡が知られていますが、昭和時代初期までは横浜でも作られていました。横浜で作られた青貝細工は輸出工芸品の花形でしたが、現在その技術は途絶えてしまいました。



Photo.06
青貝細工 人物図写真帖／横浜
明治時代
幅35.5×縦27.5×厚さ6.0cm

■ 芝山細工

芝山細工とは、厚みのある貝を使って文様を表わし、象牙や漆面に象嵌したもので、下総（現在の千葉県）芝山出身の大野木専蔵という人物が技法を考案しました。作品が評判を呼んだため、大野木は江戸に出て芝山に改姓、多くの弟子を取り、芝山細工は発展しました。その後、横浜開港で外国人が多く来日するようになり、海外からの注文が増えたため、横浜に芝山細工の職人が集まり、制作されるようになりました。また、横浜で制作された芝山細工は横浜芝山漆器と呼ばれることもあります。西洋人好みに作られた横浜芝山漆器は、日本人の目には奇異に映るかもしれませんが、独特の雰囲気の魅力となっています。



Photo.07 芝山細工 豊年満作図衝立
明治時代
幅181.0×高さ116.0cm



Photo.08 芝山細工 飾棚
明治時代
幅123.5×奥行37.0×高さ204.0cm



Photo.09 芝山細工 花籠図小簞笥
明治時代
幅18.0×奥行7.0×高さ28.0cm

■ その他

麦わら細工



Photo.10

麦わら細工 シガー＆シガレットケース
明治時代
幅18.0×奥行7.0×高さ28.0cm

貝細工



Photo.11

貝細工 孔雀
昭和時代後期
幅35.5×奥行17.0×高さ39.0cm

生人形



Photo.12

生人形
二代山本福松作「初代中村吉右衛門の北条高時」
大正12年（1923）
高さ70cm
竹日忠芳氏蔵

【たばしお講座】 午後2時～／定員：90名（整理券制）／会場：3階視聴覚ホール

11月12日（日）

「和の再発見 和菓子の万華鏡」

講師：中山圭子（虎屋文庫）

11月23日（木・祝）

「麦わら細工の輝き」

講師：藤塚悦司（大田区立郷土博物館学芸員）

12月10日（日）

「明治の輸出陶磁をどう見るか－作り手達のジャポニスム」

講師：花井久穂（茨城県近代美術館主任学芸員）

12月17日（日）

「民藝と和モダン」

講師：杉山享司（日本民藝館学芸部長）

【たばしお寄席】 午後2時～／定員：90名（整理券制）／会場：3階視聴覚ホール

12月3日（日）

口演：古今亭志ん橋（噺家）

解説：新藤茂（国際浮世絵学会常任理事）

【展示関連イベント】

午前11時、午後2時の2回開催（各回とも60分程度）

定員：各回とも25名（整理券制）／会場：1階ワークショップルーム

11月5日（日）

「ふろしきでバッグを作ろう」

協力：物流博物館

講師：三田芳美（物流博物館学芸員）

“ふろしき（風呂敷）”の歴史を紹介し、普段の生活や旅行などで使えるバッグを作ったり、ペットボトルを風呂敷で包む方法を学びます。

※たばしお講座、たばしお寄席およびイベントには、常設展のみご覧いただける入館料（大人・大学生100円／小・中・高校生50円）または本展観覧料でご参加いただけます。

※当日開館時より整理券を1名につき2枚まで配布します（配布時に人数分の入館料または本展観覧料をいただきます）。

【ギャラリートーク】

11月3日（金・祝）、11月26日（日）、12月16日（土）、2018年1月7日（日）

講師：金子皓彦（日本輸出工芸研究会会長）

ギャラリートークは、いずれも午後2時から、2階特別展示室で開催。

参加には、特別展観覧料（一般・大学生300円／満65歳以上150円／小・中・高校生100円）が必要です。

返信用シート

(「和モダンの世界 近代の輸出工芸」展画像希望)

たばこと塩の博物館 広報担当 裊地宛

FAX : 03-3622-8807

E-mail : horochi@tsmuseum.jp

「和モダンの世界 近代の輸出工芸」展プレスリリースに掲載している画像12点を広報素材としてご提供します。必要事項をご記入のうえ、FAXかメールでご返送いただければ、ご希望の画像 (jpeg) をメールでお送りします。

■広報用画像

チェック欄	画像No	キャプション・クレジット
☐	Photo.01	寄木細工 ライティングビューロー / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.02	真葛焼獅子図花瓶 / 明治～大正時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.03	寄木細工 レターボックス / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.04	木象嵌 (木画) / 昭和15年 (1940) ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.05	薩摩焼武将図大花瓶 / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.06	青貝細工 人物図写真帖 / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.07	芝山細工 豊年満作図衝立 / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.08	芝山細工 飾棚 / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.09	芝山細工 花籠図小簞笥 / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.10	麦わら細工 シガー & シガレットケース / 明治時代 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.11	貝細工 孔雀 / 昭和時代後期 ©金子皓彦コレクション
☐	Photo.12	生人形 / 二代山本福松作「初代中村吉右衛門の北条高時」 / 大正12年 (1923) 竹日忠芳氏蔵

※紹介記事中、展覧会名または文中に「金子皓彦コレクション」を入れていただける場合は、「©金子皓彦コレクション」は不要です。

No.12をご使用の場合は、所蔵先を明記してください。

■貴媒体について

貴社名 :

ご担当者名 :

ご連絡先 TEL :
FAX :

e-mail :

媒体名 :

掲載予定日 (号) :